

I スイス研修

A. 国際連合欧州本部

1. 国際連合について

国際連合は、第二次世界大戦を避けなかった国際連盟の反省を踏まえ、1945年サンフランシスコ会議による国連憲章によって発足した。原加盟国 51 カ国で設立された国際機構で



ある。日本は 80 番目の加盟国であり、現在は 193 カ国が加盟している。私たちが訪れたスイスは 190 番目に加盟した。このように、スイスの加盟が大幅に遅れた理由は中立国であるからだ。国際連合の公用語は、ロシア語、英語、中国語、スペイン語、アラビア語、フランス語の 6 ヶ国語で、国連の主要な会議では、原則として、これらすべての言語が用いられている。国際連合の主要機関

は、総会、理事会、事務局、国際司法裁判所がある。国連は世界政府ではなく、国家間で設立した国際機関である。

2. 国際連合欧州本部のガイドツアー



ジュネーヴ研修 1 日目朝、最初の研修先として、国際連合欧州本部を訪問した。本部に入る前はパスポートチェックや手荷物検査があり、空港並みのセキュリティチェックを受けた。そこでは、まず国連のビジターセンターが主催するガイドツアーに参加し、建物の中を見学することができた。

国連の公用語は 6 カ国語だが、国連欧州本部での働く際の言語はフランス語、英語とされている。国連は、米国ニューヨークに本部をおいており、ここジュネーヴの欧州本部と業務を分担している。ジュネーヴで行われる会議は、主として人道、人権、経済社会、科学、軍縮、科学兵器の撤廃、核兵器関連の分野とされている。ガイドツアーに参加していた他の国連機

関に勤めるイラク人から、「石油と食糧についてはジュネーブで決定されているか？」という質問があった。石油と食糧についてはニューヨークで会議を行い、合意の形成をしているとのことだ。また、見学をしているときにモルドバに対する「定期的普遍的人権」の会議が行われており、同時通訳のヘッドフォンを使って傍聴することができた。オーストラリアの代表がモルドバの人権状況に対して注文をつけており、その発言を聞くことができた。次に、国連欧州本部最大の会議場に案内された。ここは、かつて国際連盟の総会も行われた場所でもある。会議場の正面にある国際連合のマークは、各国をなるべく公平に描くよう北極を中心として描かれた正距方位図法の世界地図を採用しており、平和の象徴のオリーブがあしらわれているのが印象に残った。

左頁上の絵は、スウェーデンとフィンランド仲裁裁判の様子である。国際連盟の時代には、規約違反国に脱退を命じていたが、それでは違反国に対する真の対応とはいえないため、国際連合においては、違反国を脱退させるのではなく、加盟国として対応するように変更された、との説明が特に記憶に残った。



右記の絵は、北京の天壇を描いたもの。この絵はどこから見ても正面から見ているように見えるトリックアートだ。国連はどこの地域から来ても歓迎しますという意味がこめられている。

3. 国際連盟・国際連合の歴史博物館

ガイドツアーの終了後、国連内に開設されたばかりの国際連盟・国際連合の博物館を訪問した。この博物館は、一応、一般公開されているものの、ガイドツアーとは異なり、特別に予約をしなければ見ることができない。ここでは、私たちのために予約しておいてくれた国連文書館のコリン・ウエルズ氏のレクチャーを聴きながら展示を見学することができた。古くは連盟規約やヴェルサイユ条約署名書の写しにはじまり、国連が現在力を入れている政策の解説まで、幅広い内容の展示になっていた。

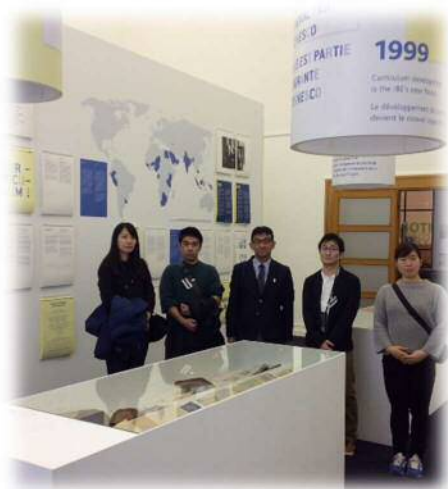


国際連盟は、1920年に活動を始めた歴史上最初の紛争解決を主たる目的とする国際機関である。仲裁から、理事会による決定を通して国際社会に法の支配を導入しようとした。し

かし、1930年代前半、国際連盟の努力の失敗が目立ってきた。原因としては世界恐慌、満州事変、イタリアのエチオピア侵略、フランスとドイツの軍縮が上げられている。そして30年後半になっていくと国際連盟は国々の信頼を失い、第二次世界大戦を阻止することはできなかった。40年代に入ると第2次世界大戦中に国際連盟から国際連合への変革が協議された。連盟時代の活動としては、主に軍縮、難民の保護、健康問題がここでは展示されていた。軍縮については、1932年～34年まで続いたジュネーブ軍縮会議の様子が展示されていた。

また、この博物館には当時撮影された貴重な映像が多数残されており、私たちは、ドイツ代表団がジュネーブを訪問した際の映像を観ることができた。その時、代表団は、ヒトラーは平和以外望んでないと述べていたが、1933年にドイツに対する4年間の軍備の拡張禁止などの提案が不平等な強制であるとして国際連盟を脱退してしまった。

国連による仲裁や集団安全保障(collective security)についても学んだが、この分野でも国連は連盟時代のシステムを模倣している。連盟時代に史上初めて採用された集団安全保障では、違反国に対して軍事的制裁ではなく、経済制裁を行っていた。国際連合になってからは集団安全保障をより徹底するために軍事的制裁も行うことが可能になっている。そのような活動が特殊なカレンダー式に展示されているのだが、このカレンダーでは、過去の出来事と現在の出来事を対比することができるようになっていた。たとえば、1937年と2016年には大変類似したテロリズム対策の会議を行っていることが一見してわかる。私たちは、テロリズムを新しい現象と勘違いしがちだが、テロリズムは歴史上繰り返されていること、また、国際連盟も国連も、幾度もテロ対策を行ってきた歴史が理解できて、それだけでも面白い展示である。私たちは、同じ過ちを繰り返さないよう、歴史に学ぶ必要があることを実感できた。



い展示である。私たちは、同じ過ちを繰り返さないよう、歴史に学ぶ必要があることを実感できた。

難民保護の活動についての展示も見学した。第一次世界大戦にともないロシア難民が大量に発生した際、国際連盟を通してナンセンがナンセンパスポートを発行した。1929年にはアルメリア、ギリシャ、トルコの難民保護、1932年にはドイツからの難民、ユダヤ人の保護する活動を行い、これが難民高等弁務官の原型に繋がった。

た。1980年代と現在の難民の状況は重なって見える。

最後には、世界の保健・健康問題についての展示を見学した。主にマラリアや結核の撲滅・予防活動を行っている。連盟時代、各国における伝染病対策としてシンガポールに拠点を設け、伝染病の情報発信を開始した。この活動は成功し、伝染病患者の数を減らすことができた。そして連合になってからも世界保健機構で伝染病の予防のために予防接種を行っている。最近ではエボラ熱などが流行しているため、各国と協力、情報共有し、感染を防いでいる。



(中野結衣 / 法学部 2 年生)

